

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 6 日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25284060

研究課題名(和文) 20世紀前半の在外ロシア文化研究

研究課題名(英文) Study of Russian emigre culture in the first half of the 20th century

研究代表者

望月 恒子 (Mochizuki, Tsuneko)

北海道大学・文学研究科・教授

研究者番号：90261255

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 5,700,000円

研究成果の概要(和文)：20世紀前半の在外ロシア文化について、研究の蓄積が豊かなヨーロッパ地域に加えて、極東地域も視野に入れた。両地域の文学・学術・音楽・演劇・映画・絵画など多くのジャンルの作家や文化事象を取り上げることによって、在外ロシア文化研究の枠組みを地域・ジャンルの両面において拡大した。特に「在外ロシアの東方の枝」と呼ばれる中国・日本におけるロシア系ディアスポラについて、その成立と発展の状況をより詳細に明らかにした。

亡命文学に関する緻密な創作研究と亡命者の事跡に関する歴史的・実証的研究の両者の成果を生かして重層的な研究方法をとり、20世紀前半の在外ロシア文化をより包括的に把握することができた。

研究成果の概要(英文)：We have pursued a multi-disciplinary research of the various aspects Russian emigre culture in the first half of the 20th century in both Europa and the Far East. In terms of research methodology we applied both text critique and historical approaches. In order to expand the range of our research, we took up works by creators and specialists of varied genres, such as literature, sciences, music, theater, films, fine arts, as our research objects.

At the same time we have investigated the detailed history of the formation and development of Russian emigrant communities, especially of its Eastern branches in China and Japan. As a result we acquired a well-balanced and comprehensive view of this unique cultural phenomena, which contributed quite a lot to the history of the 20th century.

研究分野：人文学

キーワード：ロシア文化 亡命 越境

1. 研究開始当初の背景

(1) ロシアにおける 1917 年の十月革命とその後の内戦は、100 万人規模の亡命者を生み出した。彼らは異境にあって他民族や他文化と接触しつつ、文学・美術・映画・演劇など多分野で独自の文化を発展させた。この在外ロシア文化は、20 世紀初頭に「銀の時代」や「ロシア・ルネサンス」と呼ばれるほど興隆していたロシア文化が、同時代のソ連とは異なる環境で異なる発展を遂げたものとして、近年は高く評価されている。

(2) 1920-30 年代にヨーロッパで展開した亡命ロシア文学は、イデオロギー上の制約が大きかったソ連文学とは異質なものとなり、プーニンやナボコフの優れた作品を生み出した。この亡命文学については、20 世紀ロシア文学の有機的な一部として位置づける見方が定着し、豊かな研究史がある。しかし、美術や音楽など、言語が介在しない他分野の芸術については、ロシア文化のカテゴリーで括ることには困難があり、在外ロシア文化研究の中ではそれほど研究の蓄積がない。多くのジャンルで在外ロシア文化を総合的に俯瞰する視点が望まれる。

(3) ロシアではペレストロイカ期から歴史観の大きな転換が見られ、ソ連崩壊後にはそれが顕著になって、在外ロシア文化への関心も大いに高まった。また従来アクセスできなかった資料（たとえば旧満州でソ連軍が押収した白系露人関係資料等）が閲覧可能になったことも影響して、在外ロシア研究が非常に盛んになっている。従来はヨーロッパの亡命ロシア文化が主に研究されてきたが、在外ロシアの「東方の枝」と呼ばれるアジアのロシア系ディアスポラにも世界的に関心が高まってきた。

2. 研究の目的

(1) ヨーロッパ地域の亡命ロシア人に加えて、アジアへの亡命者も視野に入れて、より広い地域での在外ロシア文化の成立と発展の歴史をたどる。亡命ロシア人は、中国（特に歴史的にロシアと密接に結びついているハルビン）にも大量に流入し、また日本にも足跡を残している。ヨーロッパの在外ロシア文化・文学に関して行われてきた緻密な創作研究と、中国・日本のロシア人社会に関して特に日本で長く行われてきた詳細な歴史的・実証的研究の双方の成果を生かして複合的な研究方法を用いて、両世界大戦間期のロシア系ディアスポラの文化活動の実態をより詳しく明らかにする。

(2) 20 世紀前半の在外ロシア文化において、伝統的なロシア性と異境ゆえの独自性はどのような関係にあり、それは様々な分野の芸術でいかに発展したかを探求して、「他者」との接触による文化的相互作用、その結果生

じるナショナルな文化の変貌、民族的アイデンティティと芸術との関係について幅広く考察する。

(3) 研究代表者・研究分担者がこれまで築いてきたロシア・欧米・中国の研究者たちとの協力関係を生かすとともに、国内の中堅・若手研究者と幅広く協力して、国内外の研究者との共同発表、研究会・シンポジウムの開催等を積極的に行い、研究者ネットワークをより強固なものにして、在外ロシア文化研究を国際的によりいっそう充実させる。

3. 研究の方法

上述の目的のために、以下の 3 つの課題について、在外ロシア文化が成立・発展した状況に関する歴史的・実証的研究と、文学・美術等の分野での創作研究を並行して推し進め、従来よりも地域とジャンルを拡大した在外ロシア文化研究を行う。

(1) 20 世紀前半のヨーロッパと極東におけるロシア系ディアスポラの社会的・文化的環境の比較研究。亡命者たちの出版・創作・教育等に関する活動状況や、彼らを取り巻いていた政治的・社会的環境について調査研究し、地域による相違と全体の共通性について比較検討する。

(2) 研究代表者・研究分担者の各自の専門研究（作家プーニン、ナボコフ等を中心とする亡命ロシア文学の創作研究、音楽・演劇・映画等の在外ロシア文化研究、来日ロシア人の事跡調査を中心とする日露文化交流史）を継続発展させるとともに、以下のような作家や事象も研究対象とする。ヨーロッパの亡命ロシア文学の若い世代、中国や日本を地盤とした作家や学者の創作や活動、映画や美術の分野における亡命ロシア人の活動、亡命芸術家とソ連に帰国した芸術家との比較研究。これらの研究を通じて、20 世紀前半の在外ロシア文化研究の対象の拡大と深化と、ソ連文化との比較研究をめざす。

(3) 在外ロシアにおける人の移動と情報流通に関する研究。世界中に散在したロシア系ディアスポラ間における人の移動、亡命系出版物や映画の流通、演劇・音楽分野の巡業やコンサートの開催について調査研究し、在外ロシア文化全体の成立と発展や亡命者のアイデンティティについて考察する。

4. 研究成果

(1) 在外ロシア文化について研究史の長いヨーロッパ地域に加えて、ロシア極東地域や中国・日本をも視野に入れて、広く研究した。20 世紀前半のベルリン、プラハ、パリなどヨーロッパの諸都市に加えて、中国東部のハルビンと日本における亡命ロシア人および亡命ロシア文化について詳細に調査研究し

て、在外ロシア研究の対象を地域的に拡大した。分野についても、文学・学術・音楽・美術など多岐にわたる亡命芸術を対象とした。プーニン、ガズダーノフ、ナボコフ、ネスメーロフ等の作家、ネフスキー、ピウスツキ、グリゴリエフ等の学者、歌手ヴェルチンスキー等に加えて、エコール・ド・パリの画家たち、映画監督、亡命系出版物など非常に幅広い創作家や事象を研究した。

(2)亡命ロシア文化・文学研究者と日露交流史研究者が共同して、緻密な創作研究と実証的な歴史研究を行い、在外ロシア文化の方法を重層的なものとした。結果として研究対象の地域と分野が拡大され、研究方法も総合的になり、20世紀前半の在外ロシア文化という複雑な対象をより広く把握することが可能になった。

(3)雑誌論文の発表、研究書・翻訳書の刊行、国際・国内学会での報告を通じて、研究成果の公表を積極的に行った。本科研の締めくくりとして企画した平成27年度日本ロシア文学会パネルは、「流動性・越境性の中で解読することが求められる20世紀以降の文化を、亡命という歴史的な文脈からとらえ直すものとなった」というコメントを得た。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計17件)

望月恒子、アルセーニイ・ネスメーロフのハルビン時代(1924-1945)、20世紀前半の在外ロシア文化研究(平成25~27年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書)1号、査読無、2016、1-15

諫早勇一、「エコール・ド・パリ」に見られる文化の共生—マレーヴナを中心に—、20世紀前半の在外ロシア文化研究(平成25~27年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書)1号、査読無、2016、16-26

МЕЛЬНИКОВА Ирина、Эмиграция и ре-эмиграция: творческие стратегии кинорежиссеров Я. Прогазанова и В. Туржанского、20世紀前半の在外ロシア文化研究(平成25~27年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書)1号、査読無、2016、95-111

沢田和彦、ロシアのラフカディオ・ハーン—ミハイル・グリゴリエフの生涯と翻訳活動—、20世紀前半の在外ロシア文化研究(平成25~27年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書)1号、査読無、2016、69-94

沢田和彦、プロニスワフ・ピウスツキと二葉亭四迷、POLE、査読無、第84号、2015年、12-13

沢田和彦、Гончаров И.А. Полное

собрание сочинений и писем в двадцати томах. Том 10: Материалы цензурской деятельности. СПб.: «Наука», 2014, 700 с.,
ロシア語ロシア文学研究、査読有、47号、2015、270-275、

http://yaar.jp.org/robun/RLL_No47

И.В. Мельникова、*«Любовные похождения одинокого мужчины» Ихара Сайкаку: между текстом и иллюстрацией, История и культура Японии 8. Orientalia et Classica, Труды Института восточных культур и античности, №57, 査読無、2015、234-250.*

諫早勇一、ナボコフ『ロシア文学講義』とゴゴリ、KRUG、7号、査読無、2015、9-15

沢田和彦、プロニスワフ・ピウスツキと二葉亭四迷、POLE、84、査読無、2015、12-13

Кадзухико САВАДА、*«Запертой ларец с потерянным ключом»: И. А. Гончаров в Японии, Русистика и компаративистика: Сборник научных статей, 査読有、Выпуск IX. 2014. 82-98.*

沢田和彦、キティー・スラーヴィナ(1900—1949)女優スラーヴィナー家三代記、ドラマチック・ロシア in Japan、査読無、2014、382-398

Ирина Мельникова、Музыка как символ русско-японского партнерства, Япония и Россия: национальная идентичность сквозь призму образов, №1, 査読無、2014、116-142.

イリーナ・メリニコワ、望月恒子、ヴェルチンスキーと彼の歌について—ロシア文化とソ連文化の架け橋—、近代ロシア文学における「移動の詩学」(平成23~25年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書)1号、査読無、2014、11-31

Юити Исахая、Берлин: городской пейзаж с железными дорогами, 近代ロシア文学における「移動の詩学」(平成23~25年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書)1号、査読無、2014、134-141

望月恒子、詩人ネスメーロフのウラジオストク生活と亡命、境界研究、査読無、特別号、2014、121-131

Савада Кадзухико、Н.А. Невский в документах тайной политической полиции, Сб.: Николай Невский: жизнь и наследие, 査読無、1号、2013、32-39.

Савада Кадзухико、Бронислав Пилсудский и Дело Осабура, Известия Института наследия Бронислава Пилсудского, 査読無、№17, 2013. 90-99.

〔学会発表〕(計25件)

沢田和彦、プロニスワフ・ピウスツキ関係新発見資料について、北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター客員研究員セミナー、2016年3月17日 北海道大学(北海道札幌市)

沢田和彦、ミハイル・グリゴリエフと満

鉄のロシア語出版物、日本ロシア文学会第 65 回研究発表会、2015 年 11 月 7 日、埼玉大学 (埼玉県さいたま市)

諫早勇一、『エコール・ド・パリ』に見られる文化の共生、日本ロシア文学会第 65 回研究発表会、2015 年 11 月 7 日、埼玉大学(埼玉県さいたま市)

イリーナ・メリニコワ、Эмиграция и ре-эмиграция: творческие стратегии кинорежиссеров Я. Прогазанова и В. Туржанского、日本ロシア文学会第 65 回研究発表会、2015 年 11 月 7 日、埼玉大学(埼玉県さいたま市)

望月恒子、アルセーニイ・ネスメーロフの亡命と創作、2015 年 11 月 7 日、日本ロシア文学会第 65 回研究発表会、(埼玉県さいたま市)

Irina Melnikova, Constructing Shared Visions of the Frontier in the Russian-Japanese Co-produced Feature Films of the 1990-s, 2015 WCAAS Meeting, 2015 年 10 月 9 日, Salt Lake City (USA)

Tsuneko Mochizuki, Gaito Gazdanov's perception of Russian classics, ICCEES IX World Congress, 2015 年 8 月 7 日、神田外語大学 (千葉県千葉市)

Kazuhiko Sawada, Russian Émigrés in Japan, ICCEES IX World Congress, 2015 年 8 月 5 日、神田外語大学 (千葉県千葉市)

Irina Melnikova, Japanese Christians and Leo Tolstoy:1890-1910, ICCEES IX World Congress, 2015 年 8 月 4 日、神田外語大学 (千葉県千葉市)

澤田和彦、早稲田と木村先生と『オネーギン』、日本ロシア文学会・日本スラヴ学研究会共同企画「木村彰一先生生誕百周年記念シンポジウム」、2015 年 6 月 6 日、東京大学(東京都文京区)

Ирина Мельникова、Лев Толстой и его первые японские издатели, 7-я ежегодная конференция Ассоциации Япониоведов, 2014 年 12 月 19 日、モスクワ (ロシア)

澤田和彦、『日露交流都市物語』について、科研基盤 B「20 世紀前半の在外ロシア文化研究」2014 年度秋季研究会、2014 年 9 月 13 日 北海道大学 (北海道札幌市)

望月恒子、第一次亡命「若い世代」と 19 世紀ロシア文学—ガズダーノフの場合—、科研基盤 B「20 世紀前半の在外ロシア文化研究」2014 年度秋季研究会、2014 年 9 月 13 日 北海道大学 (北海道札幌市)

諫早勇一、『ロシア人たちのベルリン—革命と大量亡命の時代—』について、科研基盤 B「20 世紀前半の在外ロシア文化研究」2014 年度秋季研究会、2014 年 9 月 13 日 北海道大学 (北海道札幌市)

澤田和彦、横浜の白系ロシア人—1920～1930 年代を中心に—、神奈川県日本ユーラシア協会、2014 年 4 月 27 日、横浜平和と労働

会館、(神奈川県横浜市)

諫早勇一、ナボコフの『ロシア文学講義』とゴーゴリ、シンポジウム：ナボコフの『ロシア文学講義』を再読する、2014 年 4 月 26 日、東京外国語大学 (東京都八王子市)

Kazuhiko Sawada, Russian Translation of Japanese Literary Works by the South Manchurian Railway Company, Workshop on "Trajectories of 'Japanese' Texts in the Early Twentieth Century", 2014 年 3 月 8 日、上智大学 (東京都千代田区)

Ирина Мельникова、Киотский квартал Гион в 1870-е годы, XVI международная научная конференция "История и культура Японии", 2014 年 2 月 19 日、モスクワ (ロシア)

澤田和彦、新聞記事に見る敦賀の対岸交流、来日ロシア人研究会、2014 年 2 月 1 日、青山学院大学 (東京都渋谷区)

Мотилзуки Цунэко、Жизнь и бессмертие в поэзии И.Бунина, Юбилейная конференция: Современная рецепция творчества И.А. Бунина, 2013 年 11 月 26 日、ヴォロネジ (ロシア)

②諫早勇一、「亡命」文化再考、日本ロシア文学会関西支部秋季研究発表会、2013 年 11 月 16 日、京都大学 (京都市左京区)

②澤田和彦、ハルビンのロシア語雑誌『ルベシユ』について、2013 年 7 月 6 日、北方研究教育センターフォーラム、北海道大学 (北海道札幌市)

③望月恒子、在外ロシア文学の「東方の枝」について、2013 年 7 月 6 日、北方研究教育センターフォーラム、北海道大学 (北海道札幌市)

④イリーナ・メリニコワ、А.Н. Вертинский и его песни - о мостах между русской и советской культурой, 2013 年 7 月 6 日、北方研究教育センターフォーラム、北海道大学 (北海道札幌市)

⑤澤田和彦、外事警察の日本在留ロシア人関係資料、来日ロシア人研究会、2013 年 4 月 6 日、青山学院大学 (東京都渋谷区)

〔図書〕(計 2 件)

沢田和彦、成文社、日露交流都市物語、2014 年、422 頁

諫早勇一、東洋書店、ロシア人たちのベルリン—革命と大量亡命の時代—、2014 年、304 頁

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称 :

発明者 :

権利者 :

種類 :

番号 :

出願年月日 :

国内外の別：

取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

望月 恒子 (MOCHIZUKI Tsuneko)
北海道大学・文学研究科・教授
研究者番号：90261255

(2) 研究分担者

メリニコワ イリーナ (MELNIKOVA
Irina)
同志社大学・グローバル地域文化学部・教授
研究者番号：10288607
澤田 和彦 (SAWADA Kazuhiko)
埼玉大学・人文社会科学研究科・教授
研究者番号：70162542
諫早 勇一 (ISAHAYA Yuichi)
名古屋外国語大学・外国語学部・教授
研究者番号：80011378

(3) 連携研究者

なし